

Medicine Health

医療・健康分野のスーパーパイオニアたち

65

いなむら さんばく
稲村 三伯

日本初の蘭和辞書『ハルマ和解』で医学の発展に貢献した江戸後期の医師

文 高橋 誠

text by Mac Takahashi

医療・健康コミュニケーター

日本初の蘭和辞書『ハルマ和解』は江戸時代後期1796（寛政8）年、医師であり蘭学者である稲村三伯（1758〜1811）らによって編さんされました。6万4035語が収められています。



鳥取市川端出身の医師・蘭学者、稲村三伯の記念碑。鳥取市立遷喬小学校に設置されている。碑が抜けた口や髭、鬚は三伯の人生の壮絶さをしのばせる。像の左には、歌人、香川景樹が三伯を讃えた和歌が刻まれている。「いく葉 ぐすしき種の ひとくさを 豊あし原に まきし人これ」

鳥取で生まれ、福岡で医学を学んだ三伯は、養父の跡を継ぎ鳥取藩医になりました。蘭医・大槻玄沢のオランダ語入門書『蘭学階梯』を読んで感銘を受け、1792（寛政4）年、江戸に出て玄沢の私塾に入門し蘭学を学びました。

蘭和辞書があれば大いに便利、蘭学研究はもっと発展すると考え、学友とともにオランダ人フランソワ・ハルマの蘭仏辞書を参考に、大作『ハルマ和解』を完成しました。しかしこの書はたった30部しか印刷されませんでした。

京都、大阪、江戸を含む
日本全国の蘭学が発展

弟の商売の失敗、多額の借金が発覚した稲村は責任を問われ藩医を辞めました。海上随鷗と改名し下総国海上郡（現在の千葉県）などを転々としたのち、1806（文化3）年京都で蘭学塾を開きました。

京都、大阪の蘭学はこれにより盛んになったといわれています。また門下生・藤林普山が『ハルマ和解』の簡略版『訳鍵』を出版、大量印刷し多くの人の手に渡り、日本の蘭学、近代医学は更なる発展を遂げます。その功績を讃え、1911（明治44）年、従四位が追贈されています。

1943（昭和18）年の鳥取大地震後に建てられた応急仮設住宅が立ち並

んでいたことも影響して広がっていった1952（昭和27）年の鳥取大火。スイカで有名な鳥取砂丘。鳥取砂丘と並ぶ自然遺産、大山鶏で有名な名峰・大山。西日本最大級の漁港・境港出身の水木しげるの妖怪漫画「ゲゲゲの鬼太郎」にちなんだ米子鬼太郎空港。青山剛昌の人気作品「名探偵コナン」にちなんだ鳥取砂丘コナン空港。「鳥取」から連想するものに、日本近代医学の発展に寄与した「稲村三伯」の名を加えたいと思います。

Profile

医療・健康コミュニケーター / 医療広報コンサルタント。慶應義塾大学経済学部卒。ミズノ、リクルート、米国西海岸最大手製函会社（LA12年）、学校法人慈恵大学広報推進室長（東京16年）など日米複数法人通算36年の広報宣伝業務を通じ、メディア・医療関係者と幅広い交流網を構築。趣味はゴルフ、ワイン（JSA認定ワインエキスパート#58）。プレジデントオンライン連載「ドクターに聞く“健康長寿の秘訣”」、ダイヤモンドオンラインで医療・健康コラム執筆中。

